令和8年度　YNU研究拠点　中間報告会

美術のつまずき 研究拠点

横浜国立大学　教育学部
学校教員養成課程
美術教育講座
伊東　一誉



研究概要

「絵が描けない！」という支援要請の背後で、何が起こっているのか





＜若年層におけるデッサン力の低下傾向＞

Dessin，素描

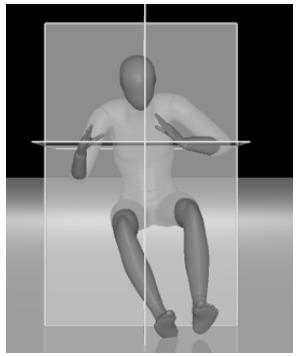
：鉛筆や木炭といった単色の画材を用い、
目の前にある立体物や人物の形状・質感・陰影を
平面に正確に描きだす描画技法

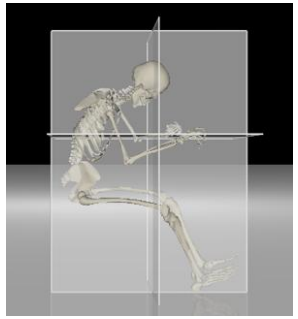


研究概要

＜デッサンに要する身体機能の解明と「観察する／描く」ことの教育的価値の見直し＞

「絵の描けなさ」につながる
運動系課題の発見





学習場面における効果検証

モノの見方の変化

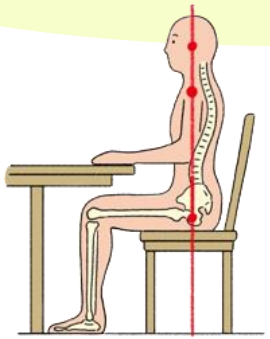
姿勢改善　自己調整



運動系課題への
アプローチの検討



運動系課題の克服に着目した描画研究



長期的に
課題を遂行するための
「よい姿勢」？



描画表現を支える身体基盤の構造化

研究概要

描画学習場面における姿勢とストレスに関する実態調査

デッサンの学習に要する運動課題の解明

初学者の姿勢の崩れと介入効果の検証

概要1　　描画学習場面における姿勢とストレスに関する実態調査

初学者を対象とした実技調査（45分間のデッサンにおける姿勢変動）



中学校の美術の授業を対象とした実態調査（描画学習場面の姿勢傾向）



＜描画中・後に発生するストレス＞

身体的負荷：首・肩の痛み／腰・臀部の痛み／手・指の緊張・疲労感

心的負荷：「身体がつらくて集中が続かない」「形の歪みを発見・修正できない」「描くことを楽しめない」

概要2　　デッサンの学習に要する運動課題の解明

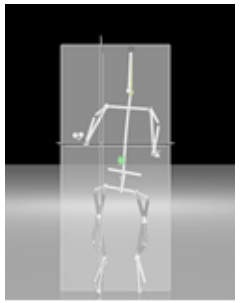
熟達者を対象とした実技調査

（60分間のデッサンにおける姿勢変動・視線移動・作品評価）



表現スキル評価





姿勢変動

モチーフ観察

（視線移動）

	描画時間	「見る」	「見ながら描く」	「描く」
熟達者	60分	4分22秒 (7.29%)	44分56秒 (74.90%)	10分41秒 (17.81%)
非熟達者	44分44秒	1分41秒 (3.87%)	21分15秒 (47.53%)	21分43秒 (48.60%)

※()内は，描画時間に対する各描画行為の時間の割合。

＜デッサン熟達者の運動傾向＞

①固定視点によるモチーフ観察

②上肢の可動性と下肢の安定性



＜デッサンに要する運動課題＞

描画者の可動性と安定性が

デッサンプロセスにおいていかに両立されるか

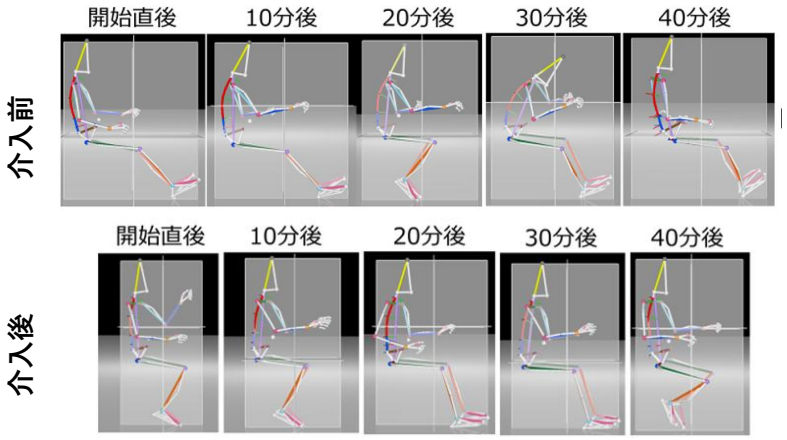
概要3　　初学者の姿勢の崩れと介入効果の検証

実験A1（第1課題）
実験B2（第2課題）
実験A2（第3課題）
介入方策の協議

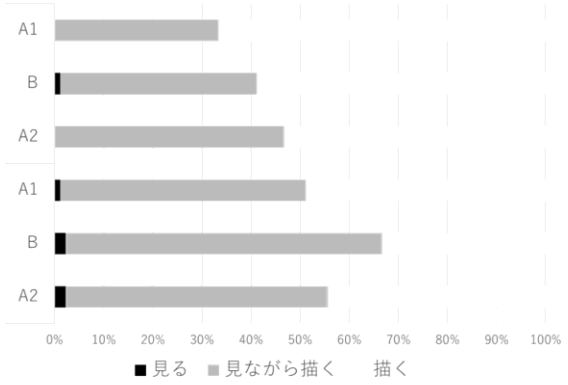


初学者を対象とした介入実験
（姿勢へのエコロジカルアプローチ）
①課題遂行を可能にするための安定性の保障
②課題・手順・道具環境に応じた柔軟性の保障

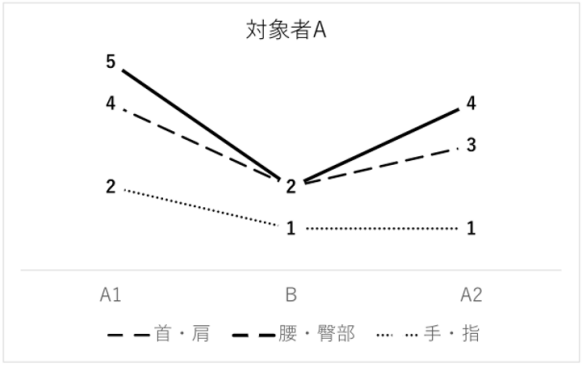
＜介入効果の結果＞



姿勢評価指標における変化量と最大偏位



モチーフ観察時間



描画後の身体的負担感

今後の展望

現在の課題：①初学者を対象としたデッサンスキル評価の作成　②姿勢の崩れと作品評価の対応

結果

（デッサン作品）



対応？



過程

（運動プロセス）

教育現場での活用を目指した「見る／描く」表現を促進するための運動モデルの構築

＜描画学習における２つのアプローチ＞

課題に向かって

自らをコントロールする学習者



個別のニーズに応じて

学習環境を調整する指導者

